総　合　教　育　会　議　会　議　録

会議の名称	第５回　総合教育会議
開催日時	平成　２９　年　８月　２９日（　火　） 午後　３時　３０分開会　・　午後　４時　４５分閉会
開催場所	上三川町庁舎　３階　大会議室
議長（委員長・会長等）の氏名	町長　星野　光利
出席者（委員等）の氏名・出席者数	星野光利　町長 森田良司　教育長 櫻井定一　教育長職務代理者 清水智生　教育委員 吉田由美　教育委員 関　美恵　教育委員　　出席者　６名
欠席者（委員等）の氏名・欠席者数	欠席者　０名
事務局職員等出席者の職・氏名	総務課長　田中　文雄 総務課長補佐　海老原　昌幸 総務課秘書庶務係長　保坂　武志 生涯学習課長　星野　光弘 企画課政策調整係長　川島　直人 教育総務課長　枝　淑子 教育総務課主幹兼管理主事兼指導主事　増渕　忍 教育総務課長補佐　青柳　政克 教育総務課長補佐兼指導主事　野口　修一
会議次第	議　事 ＩＣＴ教育の推進について　タブレットの活用 その他
配布資料	

発　言　内　容

【町長】　　定刻になりましたので、ただいまから第５回上三川町総合教育会議を開催いたします。進行につきましては、会議の主催者であります私が務めさせていただきます。

今年１回目の総合教育会議となりますが、今回は「ＩＣＴ教育の推進について　タブレットの活用」を議題といたします。ＩＣＴ教育の推進については、次期学習指導要領におけるアクティブラーニングやプログラミング学習が求められており、今後のＩＣＴ教育のあり方や方向性などを自由にご協議していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、早速議事に入らせていただきます。ＩＣＴ教育の現状と今後の整備の推進について及び今回整備されているタブレットについて、事務局より説明をお願いいたします。

【事務局（増渕）】　　それでは、委員の皆様には資料を事前に配付させていただきましたので、そちらをごらんいただきながら説明をさせていただきたいと考えています。では、座って説明をさせていただきます。

資料の１枚目、２枚目と新聞の記事があるかと思います。ＩＣＴ環境と情報活用能力ということで、教育ＩＣＴの教材整備の指針が出されたというものが１枚目の新聞記事になっております。こちらについては黒く塗ってあるところがあるかと思うのですが、なくてはならない機能をリスト化するということで、ＩＣＴの教材整備の指針の中でそういったものが進められていくということになっております。

２枚目の新聞記事になりますが、こちらにつきましては、学校におけるＩＣＴ環境整備の在り方に関する有識者会議というものがございまして、こちらにおいて最終まとめの案が現在検討されているところでありまして、ＩＣＴ環境の整備は設置者の責務であるということと、ＩＣＴを活用しなければ実現できない学習活動がこの中にはあるんだということが明示されたものになっております。

また１枚めくっていただきまして、こちらが先ほどの有識者会議の最終まとめになっております。こちらについては要点をご説明させていただきたいと思います。まず、１枚目の丸の３つ目になりますが、蛍光ペンで線が引いてあるところになりますけれども、ＩＣＴ環境の整備については、一部の学校のみ実現可能なＩＣＴ環境を想定するのではなくて、全国の学校において整備すべきＩＣＴ環境を想定して、限られた予算を効果的かつ有効的に活用する観点から、その整備のあり方について検討を行う必要があるということが述べ

られております。

本町のタブレットの整備につきましても、限られた予算を有効に活用する中で、やはりタブレットが最優先的に整備していくものであるということを検討してきた結果の現在の導入という形になっているところでございます。いわゆる高スペックの機能のものではなくて、それよりも、多くの子供たちが活用できるようなものとして整備をしていく必要があるということが述べられております。

１枚めくっていただきまして、２ページ目になります。ＩＣＴ環境の整備に関するものとしまして、子供たちにこれからつけていく資質・能力の中に、情報活用能力――情報技術を手段として活用する力を含む――の育成については、言語能力等と並ぶ形で教科等を越えた全ての学習の基盤として育まれ、活用させる資質・能力として明記されたということです。したがって、情報活用能力というのは、子供たちに身につける資質・能力が言語能力等と同じぐらい重要なものなんだということです。これからの世の中を生きていく子供たちにとっては、情報活用能力というのは最重要の身につける能力の１つであることが言われております。そのために、一番下の線のところになりますが、各地方公共団体において必要なＩＣＴ環境整備を加速化していくことについて、強く要請がなされているということになっております。

資料の５ページを御覧いただければと思います。では、こちらについては、まずアンダーラインが中段ほどにあるかと思いますが、ＩＣＴを適切に活用した学習活動の充実が求められることとなったばかりではなく、各教科等においても、ＩＣＴを活用した学習が効果的に行われるようにすることといったことが記載されております。したがいまして、例えば技術の授業の中でＩＣＴを使えばいいとかいうものではなくて、全ての教科の中で当たり前のようにＩＣＴを使った授業を効果的に行っていくということが、今後の授業、今後の学校の中では求められていることになっております。

今度は下から４行目の段になりますが、したがいまして、ＩＣＴを活用することを前提として教育環境を整えることは、国や教育委員会等の行政または設置者として、当然の責務ということが言われているところでございます。

また１枚めくっていただいて、７ページ目になりますが、ＩＣＴの環境整備の在り方の検討に当たっての基本方針ということで、上から３つ目の②のところになります。ＩＣＴを活用した学習活動を踏まえて、優先的に整備すべきＩＣＴ機器等と機能について具体的に整理を行うことを検討する必要があるということが言われています。町の教育研究所で

は、さまざまなＩＣＴ機器の展示会、また研究会等に足を運びまして、最優先に整備するのは、現在はタブレットであろうということで整備を進めているところでございます。先日の教職員のタブレットの活用に関する研修会の中で講師の方からも、タブレットを導入するということは、電子黒板的機能をタブレット端末は持つということで、電子黒板を導入するのに匹敵するような使い方ができるというご説明をいただいたところです。そういった意味からも、今回のタブレットの導入というものが優先的順位の１番になっていくかと思います。

次に３番としまして、限られた予算を効果的かつ有効的に活用する観点から検討を行うことが言われております。効果的なものであっても高スペックのものではなくて、限られた予算の中で行っていくということで、タブレット端末の中に入っているソフトウエアについても現在は試行段階となっておりますが、２種類のものが入っております。これまで学校のパソコン室には非常にたくさんのソフトウエアが入っていたのですが、厳選をして２種類にしております。それについては、タブレット導入の目的が、本町の場合には子供たちに表現力とか発表力とか対話力とかいったものをつけるというのが目的になっております。その目的に特化をしてタブレット端末を使うということで考えておりますので、ソフトウエアについても厳選をしているところです。ただ、幸いなことに、導入いたしておりますｉＰａｄについては、アップルという会社のほうで教育用のコンテンツを無償で提供しているものが非常に多様にございますので、そちらを使うことが可能という点もメリットになっているかと思います。

最後に、最後から２行目になりますが、高機能・高コストの調達にならないように、今後ＩＣＴを整備していくということで、本町においても、さらにその点には注意をしながら整備を進めてまいりたいと考えているところです。

以上で、簡単ですが、ご説明を終わらせていただきます。

【町長】　説明が終わりましたので、皆様から質問がございましたらお願いします。

どうぞ。

【櫻井教育長職務代理】　ｉＰａｄといったものに移行してきて、今現在の電子黒板の利用形態は、どんな形での利用になっているのでしょうか。それを参考までにお聞きしたいんですが。

【事務局（増渕）】　電子黒板については、おおよそ各学校に１台ということで、中には２台入っている学校もございます。それぞれ、学校ごとによっての使い方に違いがあるん

ですけれども、例えば実物を提示して、その実物を、電子黒板ですので画像上に書き込めたりするところがございますので、画像の中に文字を書き込んでみたりとか、あるいは、実際にその画像を動かしてみたりとかいった形での使い方がされていることが多いかと思います。

ただ、本町で導入している電子黒板が、５０インチのモニターに枠をつけるという形の電子黒板になっておりますので、設置について若干時間がかかるところがデメリットとしてあります。それであれば、やはり５０インチのモニターを使って、タブレットで電子黒板の機能を持たせるもののほうが、教職員にとっては、授業の準備にかける時間が短縮できるのではないかと考えております。

よろしいでしょうか。

【町長】　　よろしいですか。ほかにございますか。

【教育長】　　補足させていただきますと、町内の小中学校には大型のテレビが普通教室に１台は配置されているほか、特別教室などにも配置されております。今回導入していくタブレットを連動させることによって、電子黒板の持つ機能のかなりの部分を補うことができるということで、今後電子黒板を導入するよりは、大型テレビとの連動を進めていくことのほうが、資金的にも、さらに効果を考えたときにも、有効なのではないかと考えているところでございます。

【櫻井教育長職務代理】　　電子黒板と同じような機能で一般のモニターが使えてしまうということですか。

【教育長】　　そうですね。電子黒板と同等ではないですが、通常の授業、あるいはこれまで活用していなかったような機能もかなり補えるということで、電子黒板を整備するよりは、タブレットの整備によって補完できるということが、かなり大きいと思っております。

【町長】　　よろしいですか。ほかにございますか。

【関委員】　　今現在は学校にパソコンがあるんですけれども、そのパソコンは、子供たちはどれぐらいの利用率でパソコンを使用していて、今後タブレットが入った場合にどういった機能で、より利便性があるとか、そこら辺についてはどういう感じでしょうか。

【町長】　　お願いします。

【事務局（増渕）】　　現在学校に導入されている、子供たちが比較的使いやすいパソコンというのは、やはりパソコン室にあるパソコンになるかと思います。そちらのパソコンは、

主に総合的な学習の時間で、インターネットを通じてものを調べるなどの活用の仕方がされていたり、あとはドリル的な機能ですか、計算問題が出るとかいったものの使い方をされてはいるんですが、そこに行かなければ使えないというデメリットがあるかと思います。

また、あるクラスがそこで使っていた場合には、ほかのクラスは遠慮してもらわなければならないということになってしまうと考えていますが、タブレットという形になりますと、各教室で使えるという利点があるかと思います。

また、本町で今回導入したものは、セルラー型というもので、電話回線を使ったタブレットになりますので、学校のどこに行っても使えるというメリットがあります。例えば校庭の隅に行っても使える。場合によっては、遠足や修学旅行で遠方に行っても使えるといったメリットがあります。それが、例えば学校のタブレットとつながっているとか、教職員が持っているタブレットや子供たちが持っているタブレットとつながっているということで、どこでも使えるというメリットがありますので、今までパソコン室に行かなければ使えないというものよりも使用頻度はかなり高くなるのではないかと思います。

また、例えば教職員が提示用に１台持って使うという使い方もできれば、２人のグループで１台使うこともできますし、６人のグループで１台使うこともできます。６人のグループで使えば複数の学級で一遍に使うこともできるという使い方もできるのではないかと思いますので、今後学校のほうで試行を行いながら、実践事例を収集することになるかと思うのですが、パソコン室のパソコンというよりも、かなり大きな使用頻度ができるのではないかと考えております。

以上でございます。

【町長】　よろしいですか。ほかにございますか。

【清水委員】　先ほど増渕さんからもちらっと聞きましたけれども、中学校から導入ということなんですよね。３５台と言っていたと思うんですが。

仮に３５台入った場合に、利用率というか、１人当たりといったらいいのか、クラス当たりといったらいいんでしょうか、年間で利用時間はどのぐらいの計算を織り込んでいらっしゃるのかなと思いますが。

【町長】　いいですか、増渕先生。

【事務局（増渕）】　実は、今回電話回線を使ったものになりますので、上限の通信機能ですか、通信機能といってもこれはインターネットに接続する機能が限られておりますが、詳しく時間数では申し上げられないところではあるんですけれども、他市町の実践事例の

中では、余裕があるようなデータ通信料のものになって契約させていただいているところになります。ただ、使用の目的が、インターネットを経由して使うというよりも、子供たちに発表するための道具として使ってもらうという使い方をすることになりますので、おそらくデータの通信はそんなには生まれないのではないかと考えています。

それから、この後、各中学校で実践していただくことになるんですが、できれば全ての子供たちと全ての教職員が何らかの形で触れるということで試行を行いたいと考えております。

具体的な時間でお答えできないところが大変申しわけないのですが、そういった形で研究を進めたいと考えております。

【清水委員】　　ありがとうございます。

【町長】　　吉田さん、よろしいですか。

【吉田委員】　　タブレットを利用するに当たって、デジタル教科書への移行は進めるということでよろしいんですか。

【町長】　　はい、増渕先生。

【事務局（増渕）】　　実は、ここが非常に、ある意味難しいところでもあるんですけれども、デジタル教科書については、積極的にさらに進めていきたいと考えております。子供たちが教科書をさらにわかりやすく使うことができるというものになるかと思いますし、また、国のほうの教科書の方向性としてもデジタル化は打ち出されておりますので、ぜひ使いたいと考えているところではありますが、実は、タブレット端末がデジタル教科書を動かすまでの性能が、今のところはありません。これは、ほとんどのタブレット端末が、演算装置自体がそれに対応していないということになっていますので、デジタル教科書については、教職員が持っているノートパソコン等を使って当面の間は使いたいと考えております。

ただ、両方合わせながら計画的に整備をしたいなと考えているところでございます。

【町長】　　よろしいですか。ほかにございますでしょうか。

１点いいですか。先ほど清水委員から質問があった、今年度中に各学校の全生徒に１回体験してもらうということでいいんですよね。来年度以降は、それからどういうふうに展開していくんですか。

【事務局（増渕）】　　今年度については中学校のみになるんですけれども、３つの中学校を、タブレットを巡回しながら使ってもらうということで考えています。

来年度については、同じように３８台の導入になりますので、そちらについては小学校で使ってもらいたいと考えております。小学校は７校あり、７校を３８台のペアで回していくということで考えますと、１校当たり１カ月ちょっとぐらいになってしまい非常にもったいないと考えていますので、小学校については、２人で１台とかグループで１台とか、複数の人数で使う使い方を研究して、研究事例を集めてもらうということで、来年度は考えているところでございます。

【町長】　今回の３５台は中学校で回していって、来年度の新規の分は小学校で回していくというイメージですね。

【教育長】　これも、補足させていただきますと、今年度３８台になります。来年度も３８台。教師用も含めてということで、順次ローテーションで使っていくわけなんですけれども、この１年、２年間は研究期間ということで、小学校は３８台でずっと今後も行くのかということではなくて、２年間の研究期間でいろいろ課題等あるいは成果等を確認していきながら、その後、充実させていければいいかなというのが教育委員会としての願いでございます。この３８台というのは研究期間という位置づけで考えております。

【町長】　ほかにございますでしょうか。

では、今回タブレットを用意してもらっていますので、模擬授業を体験していただいて、それを体験した後に、ご質問等があればと思います。

よろしいですか、準備していただいて。

―模擬授業を通して、タブレットの機能を体験―

―他市町の活用事例を動画で視聴―

【事務局（増渕）】　例えば、以前スティーブ・ジョブズさんが前に出てアップルの宣伝をするときに、同じような形でスピーチなんかをしていたんじゃないかと思うんですけれども、ああいう力が今後学習指導要領の中では求められて、世界の中で活躍するような日本人を育てるというところで、やはり同様の表現力が子供たちには求められていくものになっているかと思います。

本町の場合には、子供たちは非常に人がいいものですから、前に出てしまうと、なかなか自分を出すことができないというものがありますので、今回導入させていただいたこちらのｉＰａｄを使って、子供たちにそういった表現力、発表力、対話力、これに特化して

活用していきたいと考えています。

また、教職員については、今まで一方的に教えるという授業だったかと思うんですけれども、今度は子供たちが発表するという、子供たちが主体になる授業への変革というものをこちらの機器を使って促していくという形で授業に導入していきたいと考えているところです。

短時間だったんですけれども、御覧いただいて、おおよその使い方がご理解いただけたかと思うんですが、今回野口のほうが大分事前の準備をしていましたので、できましたら拍手か何か……。（拍手）

【事務局（野口）】　いえいえ、とんでもございません。ありがとうございます。

【事務局（増渕）】　ありがとうございました。

【町長】　それでは今、野口先生による、とってもおもしろい、わかりやすい授業を受けた後ですが、今までの部分も含めてで結構です。皆様からご自由に、レジュメでいうと「その他」に入っても結構ですので、ぜひどうぞ。櫻井さん。

【櫻井教育長職務代理】　先ほどの話を引きずっちゃうんですが、今使っている電子黒板の１台の値段は、タブレットにすると何台分ぐらいに相当するんですか。

【事務局（増渕）】　現在の電子黒板から想定すると１０台ぐらいだと思うんですが、やはり、「この電子黒板はいい」と先生方に見ていただいた電子黒板からすると５０台分ぐらいになるかなと思います。

【櫻井教育長職務代理】　５０台ですか。

【事務局（増渕）】　はい。教職員が考える理想的な電子黒板からすると、そのぐらいのものになるんじゃないかと思います。

【櫻井教育長職務代理】　増渕先生のお話だと、今使っている電子黒板というのは、電子黒板のところに行かないと操作ができないということで、今使っている形だと、５０台分のタブレットがあれば、５０人の授業がこれでできちゃうということですよね。

【事務局（増渕）】　はい、そのぐらいの価値があるものだと思います。

【櫻井教育長職務代理】　そうすると、早くそうしたほうがいいんじゃないかと思うんです。電子黒板よりもかなり能率的に使えるんじゃないかと思うんですが。

【教育長】　それに付随してよろしいでしょうか。これまで文科省などでは電子黒板の配置の目標を教室に１台と掲げてきているんですね。ところが、教室に１台なんて、現実とはかなりかけ離れているわけなんです。文科省でも見直しをして、電子黒板が各教室１

台よりももっと現実的に活用できるものということで、それらを見直すような方向に来ております。電子黒板は必須ということではなく、活用の度合いが高いようなものということで、これからそれらが見直される予定になっております。その中では、やはりタブレットなどの導入が織り込まれているのではないかと想定しております。今年度中にそれらが打ち出されるような話を聞いております。

【町長】　いいですか。ほかにございますか。

どうぞ、関さん。

【関委員】　授業を受けた感想でもいいですか。すごく楽しかったです。そして、多分、可能性がたくさんあるんだというのと、自分用ノートの写真をとり入れたりとか、自分専用のノートとかをより写真をとり込んで、今までは手書きで全部頑張らないといけなかったとことら、これがあれば、あ、こういう勉強ができるんじゃないのかな、そして自分たちが若いときにやりたかったなと思う可能性をすごく感じて、その可能性を受けられる、今、この子たちで、もう古河市とか先行型でやっているところもあって、ああいう発表を見ると、私たちの子供も……。

今の子は早いんです、いろんなものをとり入れるのが。私たちみたいに固定概念がなく、非常に早くとり入れるので、活用が無限大にあるなと。実際自分が受けてもこれだけ楽しいし、子供たちはもっと発想がすごいですから、どんな使い方をしてくれるのかなという興味をすごく湧かせていただきました。

数学でもこういう授業の使い方ができるんだなと。何となくＩＣＴというと、プログラミングとかいうことをよく聞いていたんですけれども、プログラミングだけに固執せずでも、こういう使い方ができるのであれば、ほんとうに低学年の１年生とかもより楽しく受けられるだろうなと。今の子は画像から見て学ぶことが増えているので、すごく理想的な部分が含まれて、可能性があるものだなと理解させていただきました。

【町長】　ありがとうございます。ほかにご意見、ご質問等ないですか。

【清水委員】　今の子供たちは結構早い時期から携帯をいじったりとか、そういった電子機器をいじっているかと思うんですが、現在はパソコンが主流で、学校にあって使っているわけですけれども、中にはパソコンを苦手にしているお子さんなんかもいるんじゃないかと思うんですね。

今日、私も実際触ってみるまで、使いこなすのが不得意な子供がいるんじゃないかと思っていて、いざ自分でやってみましたら、大人がすごくすらすらと初めてでも動かせると

いうところを見ると、パソコンよりはこちらのタブレットのほうが使いやすいし、子供たちが楽しく授業を受けることに関して、非常にいいものじゃないかと感じました。確かにパソコンに比べればすごく使いやすいなというのが一番の印象でした。

以上です。

【吉田委員】　野口先生の楽しい授業を受けさせていただいて、実際にタブレットを触ってみて、やっぱり先ほど関さんがおっしゃったように、子供たちの吸収は早いですから、飲み込みも早いと思います。

あとは、先生が指導する指導の仕方にもよるかと思うんですが、今まで黒板で、背中を向けた先生ではなく、教室中どこへでもタブレットを持って授業ができれば、子供たちの顔を見ながら授業が進められて、とてもいい授業ができるのではないかと思いました。できたら、１人１台ずつ持って、教室で授業ができるとすばらしいと思います。

【教育長】　この前、教員に対しての研修会をやって、私も含めて、みんなおっかなびっくりという方が多かったんですけれども、研修を進めていくうちに緊張感が笑顔に変わってきているような、そんな感じを見受けて、不安から期待に変わってきつつあったのかなという印象を持たせていただきました。

【町長】　私から質問いいですか。野口先生はすらすらと教えていただきましたけれども、全部の先生がここまで習得するのに、多少勉強される時間がないとなかなか難しいと思うんですが。先生は忙しいのに、そういう時間はどういうふうに確保しているんでしょうね。

【事務局（野口）】　よろしいですか。最初に入る明治中学校なんですが、９月６日に校長先生から研修会の要望があり、全職員でこのロイロノートの研修会の予定を組んでおります。私もそれほどたくさん触ったわけではなくて、直感的にできるのかなという感じがしました。今日使っていただいた皆様も、意外と簡単に行けているんじゃないかと思いますので。

実際に明治中学校、ほかの中学校でも、教員はｉＰａｄを持って授業をやっている先生もいらっしゃるという現状でございます。

【町長】　もう１つ、最初の説明で、ｉＰａｄで、アップルのソフトは充実しているというお話がありましたが。

【事務局（増渕）】　じゃ、ちょっと見ていただければ。

【事務局（野口）】　アップルでは、このようにフリーのコンテンツが……。

【町長】　　それはフリーですか。

【事務局（野口）】　　はい。まだこれは一部でございます。こういう形であります。

あとは、プログラミングのほうも小学校で導入されると思うんですが、こういうのもフリーで、アップルは教育に特化している一面もありますので。子供たちが、小学生でも興味を持って簡単にできるようなプログラミングの言語が入っているのですが、そういったこともできます。

【町長】　　授業の内容は、そういった無料のコンテンツのソフトを先生方が見て、ご自分でご指導されるのにいいソフトがあるから、これを使って子供たちに授業で使ってみようということができるということですか。

【事務局（野口）】　　はい。私でしたら、多分一番最初に使うのは、「ＮＨＫ　ｆｏｒ　ｓｃｈｏｏｌ」という、ＮＨＫがウエブに出している動画の番組がございます。それがもう入っていますので、それを見て、理科とかでしたらすぐに使えるなと思います。ノートパソコンを持ち歩かなくても、まずはこれでできるかなと考えます。

【町長】　　そうすると、新たにソフトを開発するとかいうことは、あんまり考えなくてもいいというイメージでよろしいですか。

【事務局（野口）】　　はい。

【町長】　　どうですか、皆さんから。

【櫻井教育長職務代理】　　いろんなソフトがあるということで、ソフトを選ぶ際に、どんなものを選んでいいかと迷ってしまうぐらいいいものがあるようなんですが、その辺の勉強会といったものも当然必要になってきちゃうんですかね。その辺のところは、十分研究していただければと思います。

【教育長】　　選択肢が多いと、どれを選んでいいかというのは、ある程度推奨するようなものも示しておく必要があるかもしれない。初期の段階のね。使い出して、さらにこういうものがある、ああいうものがあるということなんですけれども、最初はある程度、基本的なものを示しておけるといいのかなという気はします。

【関委員】　　親として、このタブレット教育をやって、イコール即成績とはまた別物であろうなというのがありますね。機械を使って、タブレットを使って、子供たちがいろんな資料をつくって、パソコンを使いこなしていくというのがあって、社会に出ても使える人間に、使いこなせる人間になっているというところが理想だと思うんですけれども、その形がつくれたとしても、実際の勉強がタブレットを使ったからものすごく向上するかと

いうと、多分、そことこれはまた別物であるんじゃないのかなというところも、親としては。

ただ、子供たちが生きていく社会では、絶対に使いこなせる人間になっているほうが得であるし、知らないよりは知って、もう知らないでは生きていけない世の中になっているなというのはあるので、使いこなせる子であってほしいというのはありますね。

【町長】　それについてご意見ございますか。学力とタブレットの相関関係というのは。

【事務局（増渕）】　よろしいですか。今、求められる学力は少しずつ変わってきているところがあるかと思います。大もとを正していくと、大学への入学試験から、高校への入学試験というものが下りてきて、どうしても点数として求められるものが１つのものとしてはあるんですが、やはり、国のほうで目指している新しい学力の中に、先ほどプレゼンテーションで見ていただいたような発表力とか表現力、他者と対話をする力とか、プログラミングであるような論理的な思考能力とかいった多様な学力が打ち出されるようになってきましたので、関委員の言われるとおり、点数化されたものではないけれども、今後、世界の中で生きていく日本の子供としては、求められる学力の１つになっていくのではないかと考えております。

【町長】　清水委員、何かありますか。

【清水委員】　また話が戻っちゃうような感じですけれども、このタブレットの使い方云々は、先生の持っていき方１つで随分変わるのかなと。大変申しわけないですが、すごく今日、野口先生の持っていき方がすばらしかったんじゃないかと。私たちも童心に返りながらこんなになってやりましたけれども、非常にこういう形で楽しくできるのはやっぱり成績アップ云々にもつながるし、インターネットにつないだりということももちろん、引き続き、パソコンじゃなくてもこっちでもやるでしょうから、また違った部分で知識も今までと違うものを得られるんじゃないのかなと思います。

済みません、話がまとまらないんですけれども、先生の動き方１つで楽しくなるのも、つまらないのも出てくるんじゃないかなと感じました。

【町長】　吉田委員、ないですか。

【吉田委員】　皆さんがおっしゃったとおりです。

【教育長】　先ほど、関委員がおっしゃったように、学力につながるのかということを、読み書きそろばんじゃないですけれども、基礎基本はしっかり身につけて、その上の活用ということになってくると思います。

やはり、読解力あるいは、外国語活動なんていうのも同じことですけれども、英語力ということが今言われていますけれども、その前に日本語をしっかり学ぶことも前提としてあるかと思います。

今、社会を見渡すと、いろんなところでＩＣＴ、タブレットが導入されていて、回転ずし屋さんに行ってもそういうものがあるでしょうし、あるいは空港に行っても観光地に行ってもそういうものが活用されているということで、暮らしの中にほんとうに浸透しているものなんですけれども、家庭なんかでもかなり普及しているかと思います。

ただ、そういう反面、家庭にそういうＩＣＴ機器、タブレット、パソコンなどがないようなご家庭もあることを考えると、やはりどういうご家庭のお子さんも触れられる環境をつくっておくことが、特に義務教育の段階では必要なのかなと。誰もが活用できるようになって、社会で活躍してもらえるといいのかなと。義務教育の使命というのはその辺にあるんじゃないのかと、そんなふうに考えております。

【町長】　それでは、まとめというわけではありませんが、タブレットを使った授業を皆さんが経験していただいて、非常に多くの意見をいただきました。

私も算数の授業を一緒に体験させていただいて、いろんな解き方といったところを、周りの生徒さんはいろんな考え方をしているんだなと、自分でも、なるほど、こういう考え方もということで、いろいろ刺激を受けるというか、勉強になることがたくさんあったりしました。ですから、先ほど来、各委員からお話が出ていますように、子供たちは、インスタとかで親のスマートフォンなどを使って、自由に写真を加工したりといったことを、既にもう小学校の低学年からできている子供たちも結構多いので、ああいった、画面を見て授業を進めるとなると、非常に溶け込みやすい児童も当然多いでしょう。それによって、算数の授業とかも非常に効果が見られるであろうと、大きな期待を感じました。

ですが、これはツールであるので、それをどのように子供たちに親しみやすく、そして確実に、学力の向上につなげていくかというのは、先生方にいろいろ研究をしていただかなければならないことが多々あろうと思います。

本年度は全部の中学生に、来年度は小学生にということで、この２年は、教育長の話で研究ということでしたので、こういった成果を、また後でご報告等いただいて、そして今後、本町のこういったＩＣＴの教育にどういうことをもっと開発していくべきか、また、それをどのようにして町としてやっていくべきかというのを、また皆さんとご協議をいただける機会があればいいかなと思いました。

それでは、皆さんからいただいた貴重なご意見を、今後の上三川町の教育行政の参考とさせていただくということで、本日の会議は終了とさせていただきたいと思います。長時間にわたりまして、ありがとうございました。

―― 了 ――